

Fukuoka City Public Library Movie Hall
福岡市総合図書館映像ホール

シネマ

Ciné-là NEWS
シネラ・ニュース
February.2000 No.43

2

【特集Ⅰ】

イラン映画の巨匠たち

特集Ⅱ

家族の肖像



悪さをした子を本気で叱ったかと思えば、その後にギュッと抱きしめる親。子供の頃に見た親の怒った顔や優しい顔が思い浮かんできた。

「父子情」／イラスト&文：山下良平

イラン映画の巨匠たち

90年代に入り「友だちのうちはどこ？」(87年)のアッバス・キアロスタミ監督から始まった日本のイラン映画ブームであるが、最近ではマジド・マジディ監督の「運動靴と赤い金魚」(97年)がヒットするなど、新しい局面を迎えている。しかし近年評価の高いマジディ監督やアボルファズル・ジャリリ監督も含め、若い監督達を支えてきたのはイスラム革命(79年)以前より活躍してきた監督達である。

知られざる巨匠の名作

バハラム・ベイザイ、ダリウシュ・メールジュイ、そしてアッバス・キアロスタミは70年代のイラン映画第一次黄金時代に監督としてデビューしている。不況やイスラム革命の波の中で、イラン映画を国際的な水準に押し上げたのは彼らの力であった。そして革命後登場した監督で最初に

評価されたのが、モフセン・マフマルバフ監督である。今回の特集ではすでに日本ではポピュラーな存在となったキアロスタミ以外の監督で、イランでは巨匠と評価されながらも日本で上映機会の少ない3名の監督に焦点をあてるものである。

マフマルバフはイランではキアロスタミを凌ぐ大衆的な人気を誇る監督である。彼の新作は映画祭上映という形ではすでに何本も日本で上映されているが、劇場公開された作品はまだなく、今後真っ先に評価を考えなければならぬ監督だろう。また90年にイラン国内で実施された映画評論家による「歴代の映画監督ベスト10」で第1位に選ばれたのがバハラム・ベイザイ、第2位に選ばれたのがダリウシュ・メールジュイである。二人の作品はまだ日本未公開のものがほとんどだが、今回の上映作品からも二人の持つ強烈な作家性と、作品レベルの高さを感じることができるだろう。

会 期：2日(水)～13日(日) ※休館日・休映日を除く

観覧料：500円(大人)／400円(大学生・高校生) 300円(中学生・小学生)

※定員制、各回入替制。

※チケットはすべて当日券です。前売り券はありません。

※福岡市在住の障害者の方は無料。福岡市在住の65才以上の方は半額。(手帳の提示が必要です。)

2 水 14:00
9 水 19:00
12 土 15:00

The Cyclist
1989年/35ミリ/カラー
83分/イラン
監督/モフセン・マフマルバフ
出演/モハッラム・ゼイナルザデ

サイクリスト

日本語・英語字幕付き



アフガニスタンから難民となったイランへ来た男が、妻の入院費を稼ぐために、一週間眠らずに自転車で走り続けるという見世物に出演する物語。イランでは圧倒的な人気を誇るマフマルバフ監督の代表作であり、一躍世界に監督の名前を知らしめた作品である。眠らないようにマツチ棒でまぶたを支えたりというコミカルな描写と共に、イランでの貧困の実態と苦しみを描かれている。

2 水 19:00
4 金 14:00
12 土 11:00

Once Upon a Time, Cinema
1992年/35ミリ/カラー
(一部白黒)/92分/イラン
監督/モフセン・マフマルバフ
出演/エザトラ・エンテザミ

ワンス・アポン・ア・タイム、シネマ

日本語字幕付き



時は1900年、チャップリンそっくりの映写技師が王宮を撮影しようとしている。ところが王はスクリーンに写った映画のヒロインに一目惚れ、スクリーンから飛び出したヒロインを追いかけ回す。イラン映画の巨匠マフマルバフ監督がイラン映画史にオマージュを捧げた作品。マジック映画史の重要な作品を随所に織り込みながら、コメディ映画となっている異色の作品。

3 木 14:00
6 日 15:00

Maybe Some Other Time
1988年/35ミリ/カラー
159分/イラン
監督/バハラム・ベイザイ
出演/ダリウシュ・ファルハング

また逢えるなら

日本語・英語字幕付き



ドキュメンタリー映画を製作しているモダベルは、街中で撮影したフィルムの中に妻が知らない男と車に乗っているシーンを見つけ、妻に猜疑心を抱き始める。一方妻は精神的な不安に悩まされており、幻覚を見るようになっていた。現代社会におけるアイデンティティの不在、心の不安をテーマにサスペンスタッチで描いた作品。

3 木 19:00
5 土 11:00
10 木 14:00

Sara
1993年/35ミリ/カラー
102分/イラン
監督/ダリウシュ・メールジュイ
出演/ニキ・キャリミ

サラ

日本語・英語字幕付き



美しい妻サラの夫は癌であり、3年もの間、海外で治療をしていた。サラは膨大な治療費を夫の部下に工面してもらい、夫には父の財産を使つたと嘘をつくのだった。そして夫に内緒で内職をしては借金を返済していた。イブセンの「人形の家」を脚色しており、女性の自立を描いた作品。93年ナント三大陸映画祭準グランプリを獲得。

4 金 19:00
11 金・祝 11:00
13 日 15:00

Hamoon
1990年/35ミリ/カラー
120分/イラン
監督/ダリウシュ・メールジュイ
出演/ホスロ・シャキバイ

ハムーン/愛の破局

日本語字幕付き



作家のハムーンは7年間連れ添った妻のマーシドを愛していたが、妻は離婚を求めて訴訟を起こしていた。仕事もうまく行かず、妻には責められ、ハムーンは次第に追いつめられていく。映画は現実と幻想、過去と未来を織り交ぜながら、ハムーンの24時間のファジール映画祭で審査員特別賞、監督賞、脚本賞などを受賞した作品。

6 日 11:00
9 水 14:00
11 金・祝 15:00

Travellers
1992年/35ミリ/カラー
98分/イラン
監督/バハラム・ベイザイ
出演/モズテ・シャムサイ

トラベラーズ

日本語字幕付き



テヘランの屋敷で美しい娘マハロクの結婚式の準備が行われていた。ところが田舎に住む彼女の姉の家族は、テヘランへ向かう途中事故に遭い死亡してしまつた。親族の訃報により、結婚式は一転葬式へと変わる。91年イランのファジール映画祭で審査員特別賞、最優秀撮影賞、主演女優賞等を獲得した作品。素晴らしい撮影と美術が、抜群の効果を上げている。

5 土 15:00
10 木 19:00
13 日 11:00

The Cow
1969年/35ミリ/モノクロ
105分/イラン
監督/ダリウシュ・メールジュイ
出演/エザトラ・エンテザミ

牛

日本語字幕付き



ハサンは村に一頭しかない牛を、自分の子供のように可愛がっていた。ところがある日、ハサンの留守の時に牛は謎の死をとげる。村人達は談合の結果ハサンには本当のことを言わず、牛が逃げたこととしよつたことになる。71年ベネチア映画祭国際批評家賞を受賞したイラン映画の傑作。シンプルな物語の中に、社会性を盛り込んだリアリズム映画として、イラン映画界に衝撃を与えた作品である。

家族の肖像

会 期：16日(水)～24日(木) ※休館日・休映日を除く

観覧料：500円(大人)／400円(大学生・高校生)
300円(中学生・小学生)

※定員制、各回入替制。

※チケットはすべて当日券です。前売り券はありません。

※福岡市在住の障害者の方は無料。福岡市在住の65才以上の方は半額。(手帳の提示が必要です。)

Where the Sun Sets

1994年/35ミリ/カラー

170分/スリランカ

監督/レスター・ジェームス・ピーリス

出演/ジョー・アペーウィクラマ

日が沈むところ

16 水 14:00
24 木 18:30

日本語・英語字幕付き



サティガラは裕福な実業家であり、彼には妻と三人の子供がいた。長男は政府機関で働いており、長女と二男は大学生、傍目には何不自由ない暮らしであった。しかし三人の子供達の恋愛と結婚は波乱万丈のものであり、サティガラと妻は子供達に翻弄され、家族は次第にばらばらになっていく。一代で財を築いたサティガラと家族の悲哀が溢れる作品である。

Spring River Flows East

1947年/35ミリ/モノクロ

195分/中国

監督/ツァイ・チュエーション・チョン・チェン

出演/タオ・チン

春の河、東へ流る

16 水 18:30
19 土 15:00

日本語字幕付き



日本の敗戦後、中国の日本占領地域に国民党が重慶から帰ってくるが、腐敗した国民党に民衆は失望する。この映画は上海で戦争中に離散した家族が、戦後に再会するまでを描いたメロドラマである。大きな歴史のうねりの中で懸命に生きる家族と、国民党の腐敗と失望を涙ながらに訴えた本作は、当時大ヒットとなる。

Red Persimmon

1996年/35ミリ/カラー(一部白黒)

167分/台湾

監督/ワン・トン

出演/タオ・スー

赤い柿

17 木 14:00
20 日 15:00

日本語・英語字幕付き



1949年、国民党と共に多くの家族が大陸から台湾のキールン港にやってくる。この映画は台湾に移り住んだ一つの家族が、次第に台湾社会に馴染んでいく様子、祖母と子供達を中心に描いたものである。ワン・トン監督の自伝的色彩の濃い作品であり、生活感溢れる描写の中に、家族に対する深い愛情を感じることができる。

Romance Papa

1960年/35ミリ/モノクロ

132分/韓国

監督/シン・サンオク

出演/キム・スンホ

ロマンス・パパ

17 木 19:00
19 土 11:00
23 水 14:00

日本語字幕付き



生命保険会社に勤務するキム係長は52才、家庭では2男3女の父だった。ところが不況のためキムは突然会社を解雇されてしまう。妻や子供達に心配をかけたくないキムは毎日背広を着て出かけていくのだった。子供達の恋愛や結婚問題等に悩みながらも、キムと子供達の交流はユーモアに溢れたものであり、心温まるホームドラマの傑作である。

Amar Akbar Anthony

1977年/35ミリ/カラー

175分/インド

監督/マヌモーハン・デサイ

出演/アミターブ・バッチャン

アマル・アクバル・アントニー

18 金 14:00
23 水 18:30

日本語字幕付き



離ればなれに育てられたアマルとアクバルとアントニーという三人の兄弟が、ギャングを相手に大活躍する娯楽映画。ギャングに追われて離散した家族が、運命に導かれるように再会する感動の物語である。70年代から80年代にかけて流行したマルチスター・システム映画の代表作であり、リシ・カプール、シャバーナ・アズミ等豪華なスターが共演している。

Father and Son

1981年/35ミリ/カラー

97分/香港

監督/アレン・フォン

出演/シー・レイ

父子情

18 金 19:00
20 日 11:00
24 木 14:00

日本語字幕付き



アン・ホイと並び香港「ニューウェーブ」を代表する監督アレン・フォンのデビュー作。本作は香港アカデミー賞の作品賞、監督賞を受賞し、監督は一躍有名になる。苦勞して子供を大学へ入れようとする父親と、親不孝を知らながらも夢を捨てられない長男の葛藤が見事に描かれており、家族と香港に対するノスタルジーが溢れた作品となっている。

映画祭という映画

ご存じのように現在では、各地で規模の大小を問わず映画祭が行われています。数日という短い期間にさまざまな映画が絶え間なく上映され、一本の映画を見るために多くの人が映画館への道を駆け抜けていきます。限られた時間と場所のなかで映画だけが全てを動かす「映画祭」という非日常的な空間が、ある日突然現れ、突然消え去るということを、私はいつもうまく信じられません。数日の間、毎日決まった時刻に会場が開かれ、アナウンスの音が響き、照明が落とされ、スクリーンにフィルムが映し出される、というただそれだけのことが、何故われわれをこんなにまでかき立てるのだろう、と思います。目を血走らせて毎行列の先頭に並んでいるあの人は、次の上映時間までに別会場の映画が見られるかと分刻みで時間を計算しているあの人は、上映終了後次の映画へ向かって狭い出口に殺到する彼らは、本当に



明日から「映画祭のない生活」に何事もなかったように戻っていくのだろうか。人ごとのように気にかげながら、いつの間にか自分も彼らに混じって全力疾走してしまう、というのが映画祭なのです。今回私は初めてアジアフォーカス・福岡映画祭の事務局で運営に携わりましたが、映画を一本も見ない映画祭というのもまた初めてでした。

もちろん、事務局のスタッフは事前に監督から送られてくるビデオで上映作品のあらましは知っているのですが、やはり日本語字幕の入った状態で、暗闇の中に映像が浮かび上がる瞬間を目にしたい、とは皆が思っています。かわりに私たちが映画祭で見ていたのは、その瞬間を求めて集まるたくさんの人々たちでした。製作過程で

もう飽きるほど見ているはずの自分の映画のために、またもや深々と椅子に腰を下ろす監督たち。自分の国の映画が始まるのを心待ちにしている留学生たちの熱っぽい瞳。上映終了後、閉館時間を過ぎて、今見た映画の感動を片っ端から語り合う皆さんのグループ。映画を見ることは基本的に孤独な行為だと思っている私にとって、こんな光景はちょっとした驚きでした。日々生じる些末なアクシデントに振り回されながらも、私たちは「映画祭」という映画を片時も目を離さずに見

ていたような気がします。私にとって映画祭というのは、映画をめぐる人々が作り出す渦の中にどうしても巻き込まれてしまう体験そのもののことで、まるで流行り病にかかっていたかのような、ほんやりしたある熟さの記憶としてのみ残ってしまうものでした。

学芸員 岩槻 歩

お知らせ

INFORMATION

ミニシアター
Educating Rita

1983年/カラー/110分/日本語字幕なし
監督/ルイス・ギルバート/Lewis Gilbert
出演/ジュリー・ウォルターズ/Julie Walters
マイケル・ケイン/Michael Caine ほか

労働者階級的美容師リタは、夫デニーに強い反対を受けながらも公開講座(Open University)の受講生となる。飲んだくれ文学教授フランクと出会い、文学への向学心と才能が目覚める。結局、仕事や夫からも去る事になったが自己選択の可能性を広げ学習意欲に燃えるリタの姿勢がフランクにも変化をもたらした。

日時:2月5日(土)14:00~

会場:福岡市総合図書館ミニシアター
観覧料:無料

お問い合わせ/092-752-3750ブリティッシュ・カウンシル福岡

シネラNEWS送付のご案内

定期購読ご希望の方に毎月シネラNEWSをお届けしておりますが、ひと月分の3月号を残すのみとなりました。引き続き平成12年4月号~平成13年3月号までの購読を希望される方は、郵便切手(90円×12月)を同封の上、下記宛先へお申し込みください。継続のお申し込みをお待ちしております。

宛先:〒814-0001福岡市早良区百道浜3-7-1
福岡市総合図書館 映像資料課

ビデオ編集技術研修室のご案内

ビデオ研修室では、家庭で撮影された8ミリビデオや各行事の記録ビデオの編集などに利用できます。(使用料1時間500円、連続使用3時間迄、デジタルビデオの編集は不可)

※詳しくは福岡市総合図書館映像資料課まで

ギャラリー展示
宇野浩二展

福岡市総合図書館2階の郷土特別資料室内に「宇野浩二文庫」が今月から開設されます。これを記念して「文学の鬼」と称された、福岡出身の大正文壇を代表する作家の全体像に迫ります。

会期:会期:2月11日(金・祝)
~3月20日(月・祝)

会場:福岡市総合図書館1階ギャラリー
観覧料:無料

お問い合わせ/092-852-0606調査相談課

各団体の自主上映

2月25日(金)13:00

卒業制作上映会

観覧料/無料

主催/専門学校九州ビジュアルアーツ
(Tel.092-474-9233 仮屋睦幸)

2月26日(土)13:00/15:15

「雨月物語」(監督:溝口健二)

観覧料/1,000円

主催/W・L・C福岡

(Tel.092-741-7687 瓜生史郎)

2月27日(日)11:30/14:00

「喜劇・女は度胸」(監督:森崎東)

観覧料/当日1800円 前売り1500円

主催/福岡映画サークル協議会

(Tel.092-781-2817)

※自主上映の詳細については、直接主催者にお問い合わせ下さい。

2月
1 火
2 水
3 木
4 金
5 土
6 日
7 月
8 火
9 水
10 木
11 金
12 土
13 日
14 月
15 火
16 水
17 木
18 金
19 土
20 日
21 月
22 火
23 水
24 木
25 金
26 土
27 日
28 月
29 火

休館日

14:00	サイクリスト	19:00	ワンス・アポン・ア・タイム、シネマ
14:00	また逢えるなら	19:00	サラ
14:00	ワンス・アポン・ア・タイム、シネマ	19:00	ハムーン/愛の破局
11:00	サラ	15:00	牛
11:00	トラペラーズ	15:00	また逢えるなら

休館日

14:00	トラペラーズ	19:00	サイクリスト
14:00	サラ	19:00	牛
11:00	ハムーン/愛の破局	15:00	トラペラーズ
11:00	ワンス・アポン・ア・タイム、シネマ	15:00	サイクリスト
11:00	牛	15:00	ハムーン/愛の破局

休館日

14:00	日が沈むところ	18:30	春の河、東へ流る
14:00	赤い柿	19:00	ロマンス・パパ
14:00	アマル・アクバル・アントニー	19:00	父子情
11:00	ロマンス・パパ	15:00	春の河、東へ流る
11:00	父子情	15:00	赤い柿

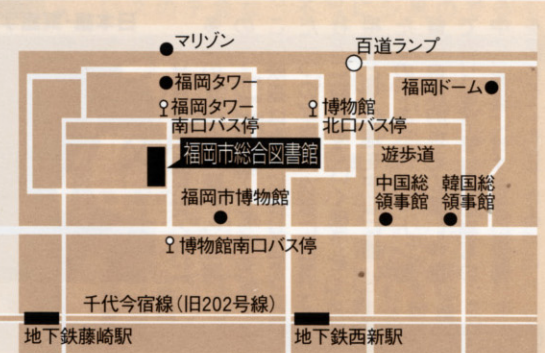
卒業制作上映会

自主上映「雨月物語」

自主上映「喜劇・女は度胸」

休館日

月末休館日



交通アクセス: 当館の駐車場スペースに限りがありますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。
地下鉄: 西新駅または藤崎駅から徒歩15分
西鉄バス: 天神~都市高速経由~福岡タワー南口 (所要時間 昼間で約20分)
博多駅~都市高速経由~福岡タワー南口 (所要時間 昼間で約25分)
福岡タワー南口バス停から徒歩3分
いずれも、昼間は10~15分間隔で運行されていますので大変便利です。お近くのバス停からのご利用につきましては、西日本鉄道テレホンセンター(電話 733-3333)に直接お問い合わせください。

お知らせ

先月号(1月)で掲載しました「映像ホール・シネラ 今後の予定」中の、田中綱代特集「来月の3月15日~25日(休館・休映日を除く)上映予定」内の「雨月物語」は、今月の自主上映企画と重複しますので、3月上映予定から削除しました。ご了承ください。

Fukuoka City Public Library Movie Hall Ciné-là

福岡市総合図書館映像ホール・シネラ

〒814-0001 福岡市早良区百道浜3丁目7番1号

福岡市総合図書館(代表)092(852)0600 映像資料課092(852)0608 Fax.092(852)0609

福岡市総合図書館ホームページアドレス <http://toshokan.city.fukuoka.jp/>